



# 次の千年のために 地域と共に守り続ける

——コロナ禍で三嶋大祭りが2年中止になりました。三嶋大社にとってはどんな意味のあるお祭りですか？

神事としての例祭は去年、一昨年も行っていますが、町を挙げてお祭りをすることが困難な状況は、過去にもありました。大東亜戦争終戦直後には神社に集まることが禁止され、寂しい時期がありました。

戦争で疲れ切った地域を元気にしようとして、当時の商工会長と宮司が協力しあって、三島商工祭りとして、大社の例祭に合わせて町じゅうが賑やかになるお祭りが始められました。それが三島夏祭り、そして三嶋大祭りになり、地域と神社とが一緒になって発展してきたのは、本当に素晴らしいことです。神社の境内だけでなく、町じゅうでここまで盛り上がるお祭りは、三島ならではのようです。

特に、戦国時代から続くと言われる祭り囃子「シャギリ（三島囃子）」には、連綿と続く三島のエネルギーを感じます。親世代から子ども世代へ受け継がれ、文化の伝承が今も続いています。神社としても、本当にありがたいことです。私の子どもたちも、町内の皆さんに教えてもらっています。

## プロフィール

昭和46年生まれ。  
平成7年 神宮奉職、平成11年 三嶋大社奉職、平成27年 三嶋大社宮司（現職）。  
平成23年 一般財団法人スルガ奨学財団理事（現職）。  
平成25年 静岡県神社庁理事（現職）、令和元年 公益財団法人佐野美術館理事（現職）。

三嶋大社 宮司

# 矢田部盛男氏

——「御大典奉祝記念事業 令和の大修理」についてお聞かせください。

令和への御代替りをお祝いして、次の時代も祈りの場所が変わりなく続いていくために、大規模な社殿の修繕をはじめとした事業を計画しています。

昭和5（1930）年の北伊豆地震で社殿が破損し、修復をしました。それから約100年、次代のために、本殿の銅板屋根の葺き替えと耐震補強や防火措置を行います。舞殿の改修工事は令和2（2020）年に屋根の葺き替え、耐震補強、照明の改修を終えました。

併せて境内を囲む玉垣の改修が現在進行中で、森の植栽など景観整備も行います。

そしてもう一つ、令和のご神宝として、三嶋大社ゆかりの2口の日本刀の復元計画が進行中です。鎌倉時代に北条時政が三嶋大社に奉納したと伝えられる北条太刀（重要文化財）と、同時代に上杉氏が奉納したと伝える上杉太刀（国宝）の二つです。明治天皇に献上し、現在は東京国立博物館の所蔵品ですが、研究者の皆さんと科学的な調査を行い、製作当初の姿を現代の名工の手で復元奉製し、御神宝として奉献いたします。

## 文化的な価値を伝える 令和の大修理

例えば伊勢神宮では、式年遷宮といって20年に一度お社を建て替えますが、そ



古典講座の様子

の度にご神宝も新調されます。ご神宝は、当代の人間国宝の方などが寄り集まって

技術の伝承を兼ねながら、その時できる最高の技術で、前回と全く同じものを用意します。神様をお遷しする時に更なる御神威を発揮していただけるよう、ご奉納申し上げるものです。

三嶋大社では、天皇が御即位になる御代替りを機会に、これまでも大きな事業を行ってきました。平成の御代替りには社務所に続いて宝物館を改築し、北条政子奉納と伝える国宝「梅時給手箱」を復元模造して、宝物館でいつでもご覧いただけます。

修理や御神宝奉製に関しては、文化的・技術的に貴重な事業となりますので、ホームページや広報誌などで、完成までの経過を皆様にお伝えしていきたいと考えています。

——他に市民向けに行っている事業について教えてください。

三嶋大社はこれまでの長い歴史の中で奉納された刀剣類をはじめ、大社及び矢田部家が保管してきた文書類が充実しています。それらを宝物館の中でテーマを決めて展示しています。お参りされる方に三嶋の大神様のお働きや神社の歴史への理解を深めていただくためです。

また、年10回の古典講座を開講しています。本年は「万葉集」をテーマに、東洋大学文学部教授の菊地義裕先生に講義をお願いしています。万葉集は和歌集の原点なので、昔の人の思いや考え方を理解することで、神様との距離を縮めていただけるのではないかと考えるからです。

## 災害の多い土地で 育まれてきた信仰の形

——市民にとっては「三嶋大社あつての三島市」という感覚があります。

伊豆半島は日本の中でも特異な地形です。フィリピン海プレートに乗ってきた島が、本州に激突してできた半島です。当時、伊豆の海では地震や噴火が多く、当時の人はそれを「国生み」、神様がお作りになったと解釈しました。

一方半島のつけ根では富士山の噴火で溶岩が流れこみ、三島あたりで止まって湧き水が出て、肥沃な扇状地が形成される。そうして農耕社会が発達したところへ、三

嶋大神様をお迎えし、次第に地域の中心となっていく。こんな流れで信仰が育まれてきました。

非常に長い歴史の中で培われた考え方や精神性が文化です。三嶋大社はそれを見守り続けてきた場所です。

——三島の印象、そして今後の展望について教えてください。

私は三島以外での生活も長かったのですが、その立場で見て、本当に素晴らしい場所だと思います。近所づきあいでも、外からのお客さんに対しても優しい方が多いです。

これからの社会的な課題に、人口減少があります。その上でも、地域の方々の距離を縮め、各地域ごとにお祀りされる鎮守の杜をお守りしていくことが、私ほども大切だと思います。伝統行事や芸能、そして文化や歴史の流れを絶やさず、伝承して行くことをより一層考えていきたいですね。



三嶋大社

三島市大宮町 2-1-5  
TEL : 055-975-0172

三島カルチャーをつくる人びとは、三島の文化応援プロジェクトが、三島周辺に拠点を置く企業や三島の文化に関わる方々に、三島の文化についてインタビューするシリーズ企画です。配布場所／生涯学習センター、三島市民文化会館、市内文化施設等。詳しくは下記のWebサイトをご覧ください。